

平成22年 3月 12日

## 第2回技術教育発表会 in 木更津参加 報告書

技術長 増田博代  
機械系班 中澤新吾  
実習工場班 船本和重  
物理・化学系班 鈴木 猛

### 1. はじめに

本発表会は、高専の技術職員が日常業務でかかわっている広範囲な技術や教育研究支援活動など技術教育について発表する会として企画された。発表内容は、日常業務から生まれた創意工夫や提案及び失敗談も重視し、技術職員の資質向上と交流を図り技術教育の充実に目的としている。

### 2. 主 催

木更津工業高等専門学校教育研究支援センター

### 3. 開催日時

2011年 3月 7日(月)13時から3月 8日(火)12時

### 4. 開催場所

木更津工業高等専門学校 総合教育棟

### 5. 日程

3月7日(月)第1日目

13:00 開会式

13:30 発表

16:00 特別講演 「これからの技術教育と技術職員の役割」

富山高専 技術専門員 伊藤通子

18:00 情報交換会

3月9日(火)第2日目

9:00 発表

11:30 閉会式

閉会式後施設見学(希望者)

## 6. 所感

今回、第2回目となったこの発表会は、参加校17（第1回11）、参加者53名、発表数28（同20）、と第1回より大幅に拡大し、各高専の関心が高くなっていることを実感した。発表内容は、実験実習、科研費関連、公開講座等の地域貢献、など多岐にわたり、各高専の積極的な取り組みを知ることが出来た。残念ながら生物系の参加がないため少々門外漢的な感じは否めなかったが、高専主催であることから、同じ立場で考えさせられることや参考になることも多く有意義な時間であった。これからも発表や情報交換の場として貴重な発表会となっていくのではないかと感じた。（鈴木）

高専技術職員における発表会であることから、発表内容や参加者の様子、冊子等を自前で作成しており主催者側の苦労なども伺い知ることができた。初参加となった今回だが、自身はともかく若い職員の発表も多く、その積極的な姿勢には刺激を受けた。今後、多くの高専が参加して行くであろう。ただ、研究活動においては業務の延長で行うことができればよいが、部署によっては厳しいかもしれない。また、そのほとんどは時間外や休日などに行っているものと思う。業務とのバランス調整なども必要ではないだろうか。（中澤）

どの発表も、練りこまれた質の高い発表であった。高専の発表会に初参加であったが、発表者の苦労等を伺い知ることができ、活発な質疑等の様子が見られ、大変有意義な時間を過ごすことができた。特別講演で、これからの学生に求められるのは、コミュニケーション力が必要なウエイトを占めるという講話は、興味深く参考になった。閉会後の構内施設見学に参加したが、施設見学だけでなく、直接技術職員から色々な話が聞けて参考になった。（船本）

これまで大学との合同研究会には何度か参加したが、今回初めて高専規模の技術研究発表会を聴講してみて、会全体の大変活発な空気に感銘を受けた。発表内容は各技術職員の日常業務をきめ細かく反映しており、我々が即現場に持ち帰って参考にさせていただけることや、研究内容に行き詰まっている場合にも貴重なヒントをもらえること、何よりも同じ環境で働く技術職員の全国での活躍ぶりを知ること、今後の大きな励みになることなど素晴らしいと感じた。初日の夜に行われた情報交換会でも各高専内部での充実した研修の様子を伺い、本校においても内部研修の新たな方向性を示唆された感があった。（増田）